

第3節 創設時にめざしていた「特色のある教育内容」

では、入江初代学科長が言われるところの、「他の大学ではできないような特色のある教育」とは、どのようなものであったのだろうか。

そこで次には、「広島文教女子大学文学部初等教育学科設置認可申請書」（昭和55年6月に文部省へ提出）に目を向ける。初等教育学科設置の趣旨のところに、手がかりを見出すことができる。

○本学の特色

本学園は、地域社会の要請に応じ、昭和37年に短期大学を、昭和41年に広島文教女子大学文学部を、教育環境の優れた広島郊外の閑静な地に設置した。以来、誠実にして責任感の強いたくましい実践力と謙虚で優雅な人間の育成を教育基本方針として、既に10回の健全かつ有為な人材を社会に送り出している。特に、本学には県下全域から本学の教育方針に賛同し、その学風を慕って誠実で礼儀正しい学生が集って来ており、それは本学の伝統となって世人の認識を深めているところである。

○本学の特色を生かした新学科の設置

現代の著しい科学の発展によってややもすると人間性の喪失を招きがちな現在の社会風潮の中にあって次の世代を育成するに当たっての責務を自覚する人材を養成して社会に送り出すことは、現代社会の強い要望である。そして、本学

の教育の在り方こそ、この現代社会の要求に答え得るものであると考える。そこで、本学の建学の精神を生かしながら、現在の社会風潮を正道にもどすために、このたび本学においては児童期の人間の育成と教育の方法を学問的に探求することを目的とする初等教育学科を設け、もって現代社会の強い要請に応えんとするものである。又、この学科には小学校教諭1級普通免許状の授与を受けられるよう必要十分なる措置を講じたい。

本学の教育方針が実を結び、独自の学風を築いてきた。その特色を全面的に受け継ぐ新しい学科として、初等教育学科が創設されたことがわかる。誠実さ、謙虚さ、礼儀正しさ、優雅さ（内からにじみ出た教養）を伴った「責任感の強いたくましい実践力」を身につけさせるという人間教育がなされてきた。それは、本学科のカリキュラムや一つ一つの授業にも反映していくし、授業以外での教育いわゆる隠れたカリキュラムにも生き続けていくことになる。

「現代の著しい科学の発展によってややもすると人間性の喪失を招きがちな現在の社会風潮の中にあって次の世代を育成するに当っての責務を自覚する人材を養成して社会に送り出す」ということは、言わば創設時の人材育成目標であり、ディプロマ・ポリシーである。また、「本学の建学の精神を生かしながら、現在の社会風潮を正道にもどすために、このたび本学においては児童期の人間の育成と教育の方法を学問的に探求する」ことは、同様にカリキュラム・ポリシーである。全ては現在のそれに通底することとして、ここに確認しておきたい。